

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市南町 3-23-1
園名	向台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂

<テーマの設定理由>

身近な砂の感触を味わい、友だちと共感しながら興味・好奇心を広げていきたい。
形を作る、水を混ぜるなど自由に遊びながら変化を楽しみ、探求心へとつなげる。

2. 活動スケジュール

① 8～9月

- ・砂の感触の変化に気づき、友だちと共有しながら遊びの発展を見守る。
- ・砂と水を混ぜて、砂の変化を手や足で味わいながらダムや川作りを友だちと存分に楽しむ。

② 10～12月

- ・友だちと楽しむ経験を通して、秋から冬は自然物を取り入れながら、見立て遊びや料理を作り、ごっこ遊びにつなげる。棒倒しや宝さがしなどの簡単なルールのある遊びを楽しむ機会を作り、砂の感触を友だちと共有できるように設定していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂、水、わくわく水流し、カップ、バケツ、

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂の感触遊びやごっこ遊びを楽しむ中で、水を足したらどうなるかなど探求心を持って遊べるように取り組んできた。水を足しすぎると泥状になり、感触が変わることに気が付き、水流しセットを使って水・砂・泥の流れる様を見て自由に遊びを展開できるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

砂と水を混ぜたところに手や足を浸けて感触の変化を楽しんでいた。保育士や友だちと「冷たいね」「どろどろになったね」など発見したことを伝えあう様子が見られた。その後、子ども同士で作ったものを見せあいながら真似をしたり、保育者にも作ったものを共有したりしあいながらごっこ遊びでも砂と水を取り入れながら遊びを展開していた。水流しセットでは、さらさらの砂は流れていくが水を含んだ砂はなかなか流れて行かず、その様を楽しんでいた。水を止めようと流しセットに砂をかけるなど、友だちと協力しあいながら取り組んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもと砂を確認しながら取り組み、夏は表面が温かく、中は冷たい、水を混ぜると感触が変わるなど様々な発見を楽しむ姿が見られた。園庭に出て砂で遊ぶ機会はたくさんあるが、水や玩具を使うことで砂を使った遊びが広がり自由に遊べる、かつ友だち同士で作る、真似をすることへの取り組みを共有し、友だちとの仲も深まるきっかけの一つになると感じた。